

NOTE BOOK

KYOKUTO NOTE IS MANUFACTURING THESE NOTE BOOKS WITH THE BEST QUALITY PAPER AND PRINTING, USING HIGH QUALITY MACHINES.

Vol. 1

賞

敬 学会石研究
ノート

山形の町のうつりかわり

5年2組

戸田正史

敬学会賞第三十九回入選作品

昭和60年

105

賤団法人敬学会



大学/3A・30枚

普通野

目次

P(ページ)

1. 研究をはじめたわけ 3p 3p

2. 研究の計画と方法 5p

3. 研究の内容 7p

研究題目 「町のうつりかわりについて」

ア. 古地図にみる町のようす 7p

イ. 現在の町のようす 11p

ウ. 100年間で変わったこと 15p

- 道路のようす.
- 家のようす.
- その他

エ. どうして変わったか 17p

4. 研究のまとめ 21p

5. 研究の反省 23p

6. 参考資料と協力者 25p

7. 資料一写真 27p

1. 石開竈をはじめたわけ

おじいちゃんか子どもに、ぼくの家のまわり

には、池とたくさんのお田があったといひます。

でも今は、ちやうど車場と家しかありません。町の

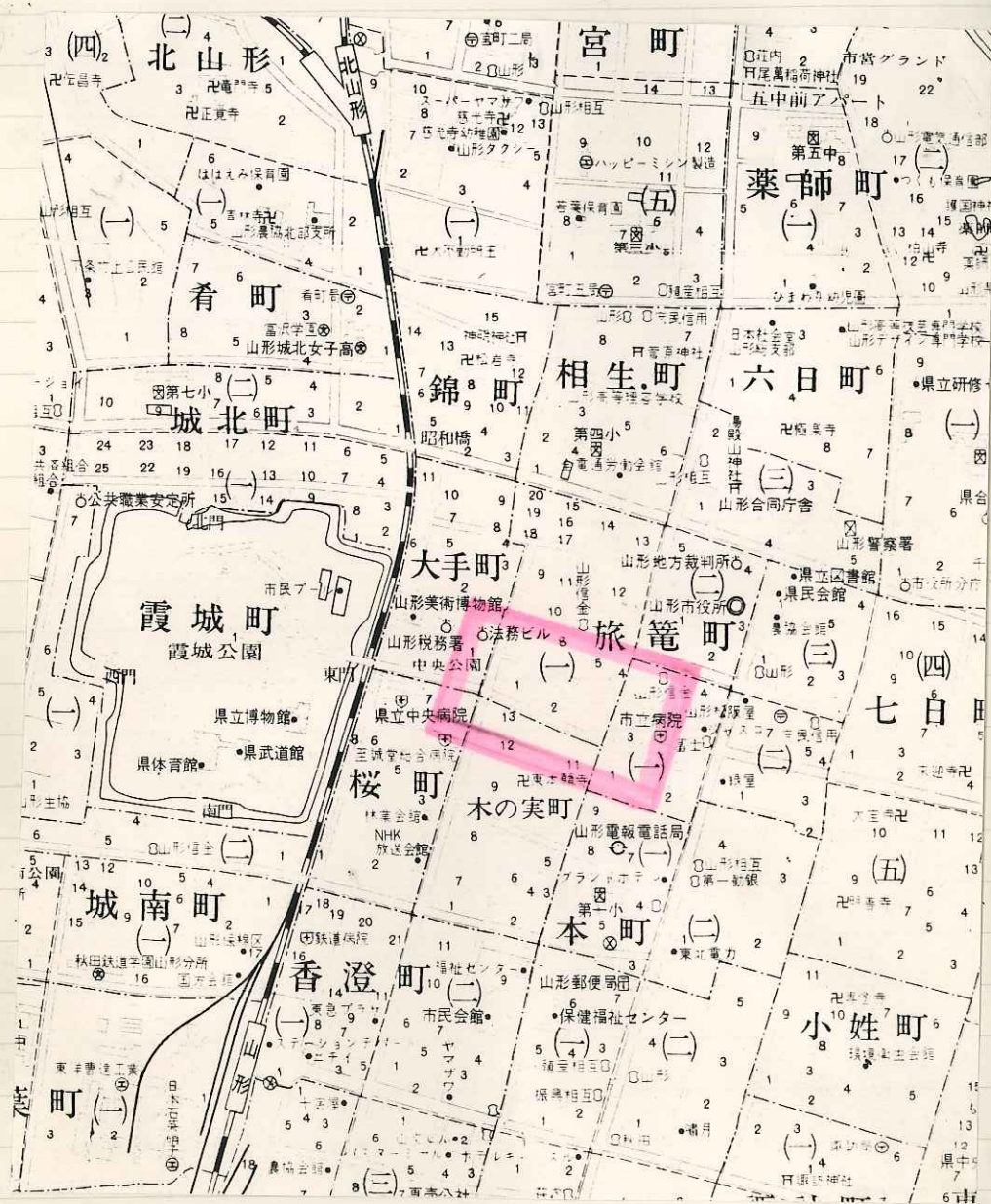
ようすは大きく変わりました。

どうして変わったのでしょうか。

ぼくの家近くを中心に昔と今の町のようすを言聞べて、

そのちがいと、変わったわけを研究してみたいと思います。

言聞べる所は左の地図に四角でかこんだ
所で、木更町、大手町、木の実町、旅籠町一丁目、
七日町一丁目、にまたがるぶがんです。これは、
6ページの古絵図に区切られたはんいと同じ
所にしたのです。



2. 研究の計画と方法

- ア. 研究の目的とやり方などをきめる(五月)
- イ. 研究のはい(時代と場所)をきめる(五月)
- ウ. 昔の地図を書きとくちゅうをさがす(六月)
- エ. 今の地図を書きとくちゅうをさがす(六月)
- オ. 昔と今の地図をしらべそのちがいをさがす(七月)
- カ. 町を歩いて自分の目でたしかめる(七月)
- キ. いろいろな所を写真にとる(七月)
- ク. おじいちゃんとおばあちゃんの話(五月～八月)
- ケ. 「山形市史」などの本で言聞べる(七月～八月)
- コ. 研究のそうまとめ(八月～九月)

古絵図

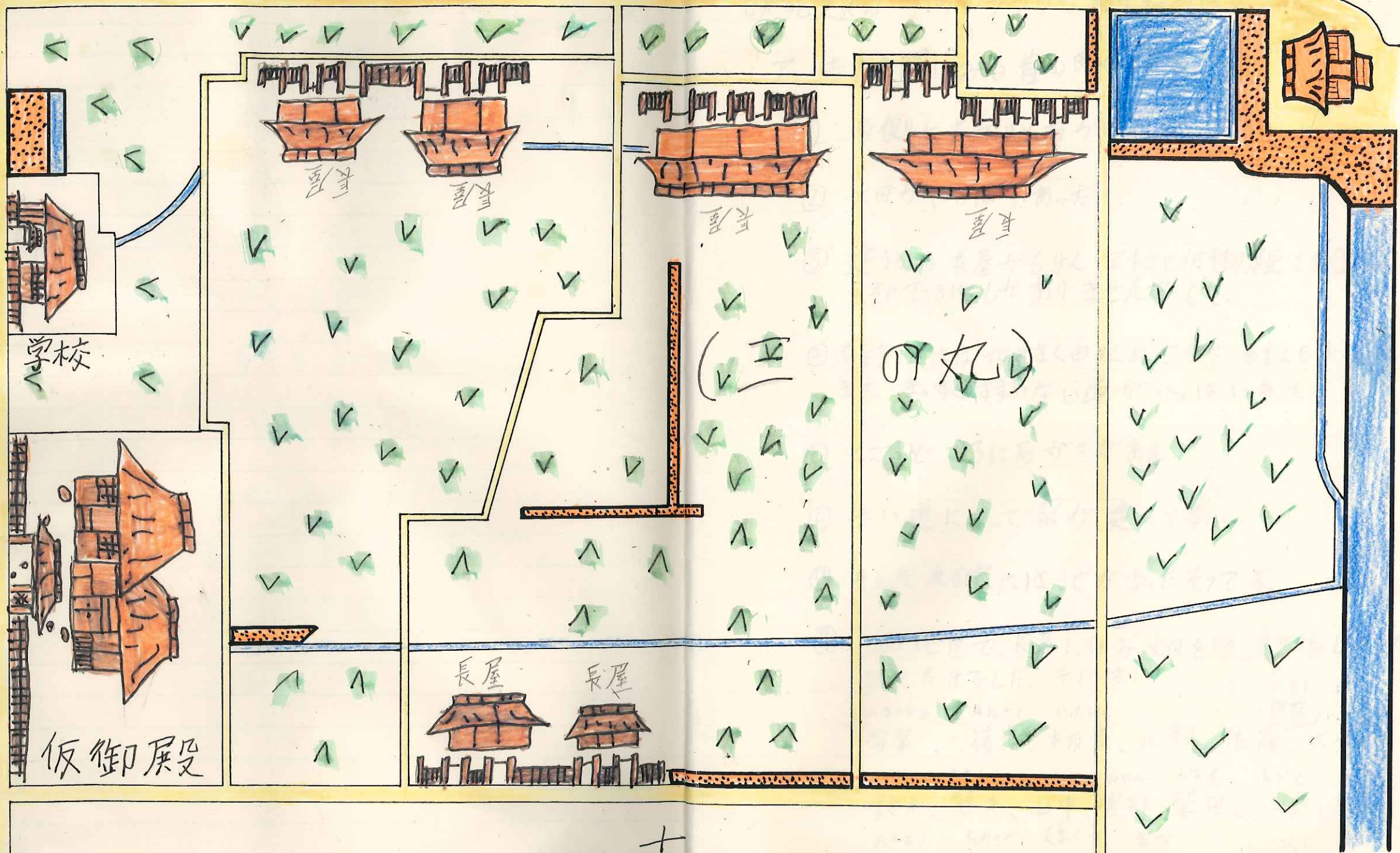
北

西

東

七日町口

南



3. 研究の内容

研究題目 町のうつりかわりについて

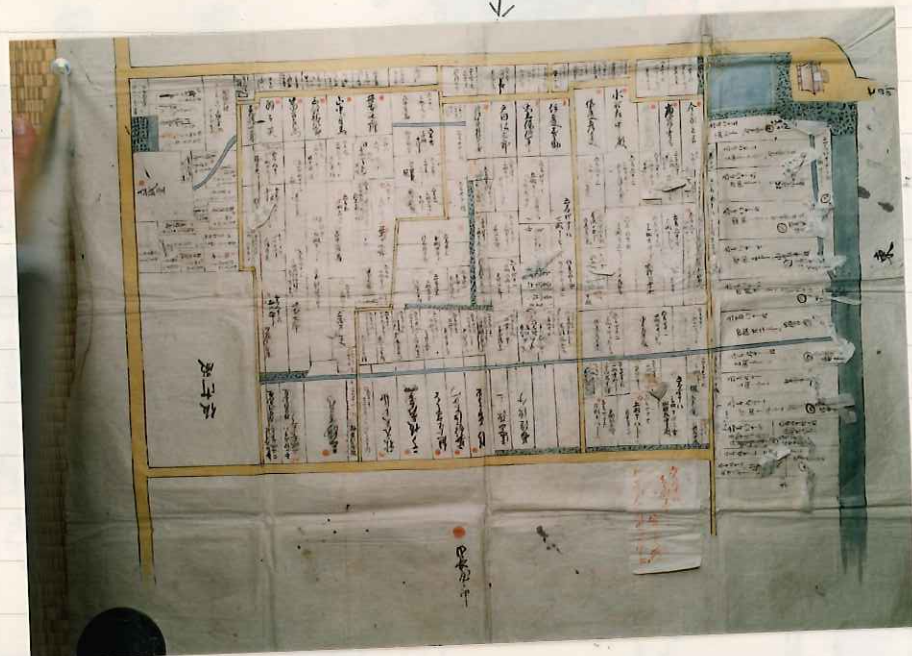
ア. 古地図にみる昔の町のようす

- ① 東側におほり石がきがあった。
- ② 火田がいっぱいあった。
- ③ 建物は、長屋が6けん、学校と仮御殿とを合せて全部で8けんしかありませんでした。
- ④ 道路は、はばがせまく曲りかねており、本数も少なかった。また、ますぐすめない道が、いっぱいあった。
- ⑤ ところどころに石がきがある。
- ⑥ 太い道にそって家が建ってる。
- ⑦ それぞれの家には、池があったそうです。
- ⑧ この地区で、長屋に住み、火田を持って生活していたのは20戸だけでした。それは、

いまいすみ	みねざし	いたはら	いとう	
今泉	嶺岸	木反原	(伊藤)	
さきもと	みやへ	しばた	はぶと	やほ
鈴木	笹本	山中	宮部	柴田
あきもと	たかきか	くまくら	あべ	みさき
秋元	高坂	熊倉	安部	杉田

 という苗字を持つ武士の人達でした。

ほとり家
↓



140年前の古系会図(糸工花文庫所蔵)

⑨ その他に住む家はないが、火田だけ持っている人が14人おりました。それは

おかへ、まかい、し、か、うめざわ、はいでう、いちかわ
岡部、堀、志賀、梅沢、持銀、市川、鈴木
よしまつ、かわせ、まつざき、つぎ、とあき、ながし
吉松、川添貞、木崎、築井、杉山、遠山、長塩という
やはり苗字を持っている人たちでした。

⑩ たいたい家と火田は、南北に糸田長く糸巻けて分けられていますが、火田だけの分は地図の中央部から学校に近い西側地区に多くはらはらにぶんぷしています。

(注)

まえのページの糸会図は、山形市立第一小学校の糸工花文庫にある古糸会図をうつしたものです。今から約140年くらいまえのようすを書いた糸会図です。

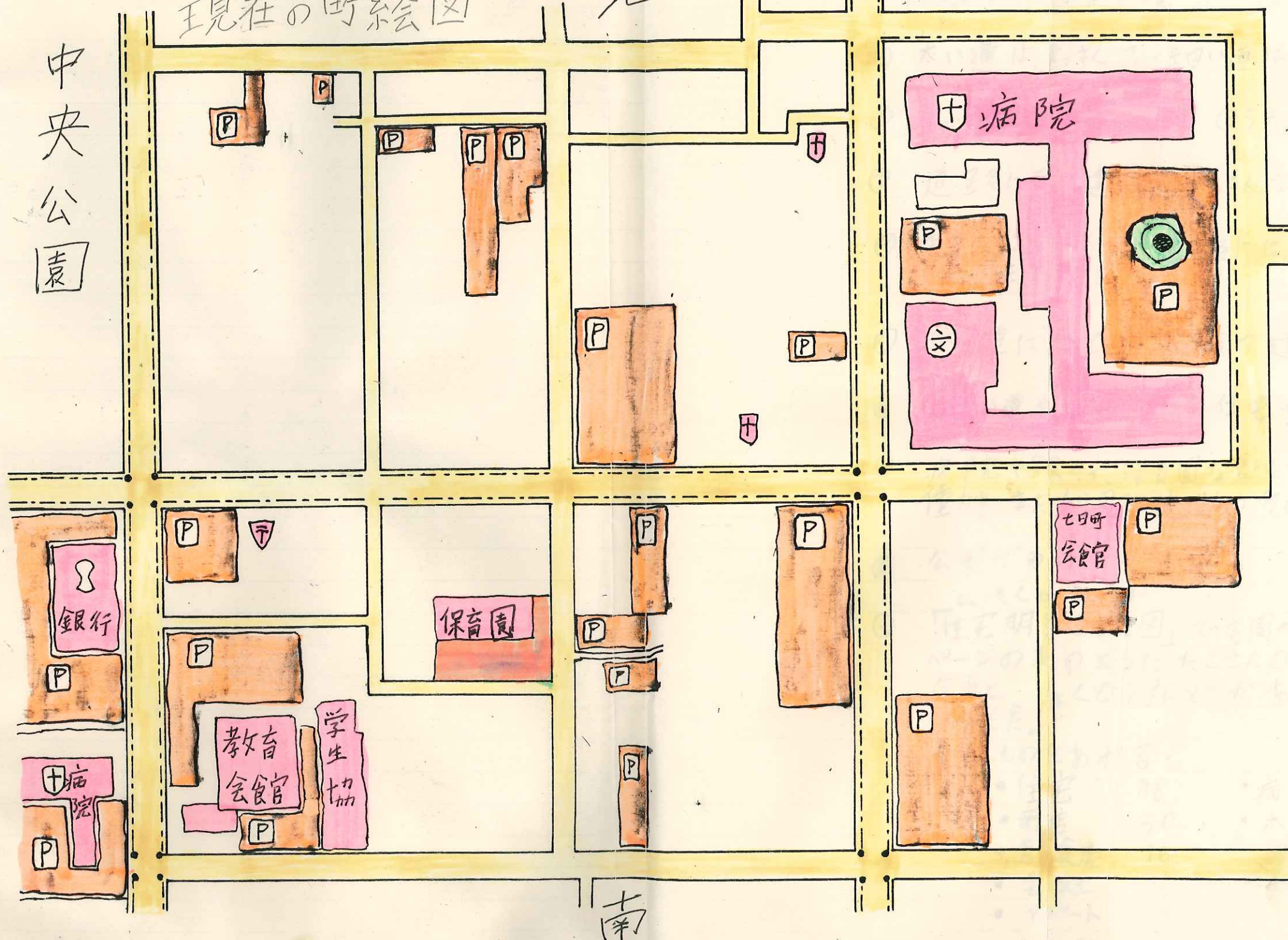
現在の町絵図

北

中央公園

西

東



イ. 現在の町のようす。

① 太い道はまっすぐで、糸田道は曲りくねってる。

② ちゅう車場が多い。(23か所)

③ 道沿各にそって建物がたくさんならんでる。

④ 車がたくさん通る太い道沿各には、ガードレールのついた歩道がある。

⑤ ④の道にそってたくさんのお店が建っている。

⑥ 糸田道やうら通りに、住宅が多い。

⑦ 病院や銀行、保育園などたくさんの人々が働け、また利用する建物が多い。

⑧ 公園が西側に一つある。

⑨ ^{じゅうたくめいさいちず}「住宅明糸田土地図」で言図べたら、次のページの表のようにたくさんのお店や店、会社、しゃくどうなどがあることがわかりました。

主なものをあげると

・住宅	86	・病院	4
・商店	50	・ホテル	3
・飲食店	16	(会館)	
・会社	16	その他	10
・アパート	9		
・むす所	6		

種類別個数	
種類	数
住宅	86
商店	50
駐車場	23
飲食店	16
会社	16
アパート	9
事務所	6
病院(医局)	4
ホテル(会館)	3
不動産	2
金融	2
学校	2
保育園	2
写真館	1
合計	222

苗字別戸数					
苗字	数	苗字	数	苗字	数
鈴木	7	木本	1	野村	1
後藤	3	沢田	1	朝一	1
山口	3	荘司	1	成田	1
武田	3	大地	1	中田	1
大沼	3	岩淵	1	大久保	1
佐藤	3	小池	1	渡会	1
岩城	2	山内	1	芦野	1
奥山	2	富田	1	尾原	1
村山	2	今井	1	山鹿	1
柴田	2	今野	1	長岡	1
伊藤	2	古里	1	安達	1
中村	2	河合	1	井上	1
五十嵐	2	吉野	1	大風	1
斎藤	2	青木	1	山田	1
柿本	1	富塚	1		
小林	1	末野	1	合計	86
寒河江	1	色摩	1		
山科	1	滝川	1		
相倉	1	前田	1		
日下部	1	村井	1		
菊地	1	田中	1		
松浦	1	長谷川	1		
相馬	1	沢内	1		
清野	1	柳野	1		

⑩ 建物を種類別に言回してみると13種類もあり、そのうち住宅の戸数(アパートの住人や商店をやっている家はふくまない)が一番多い。でも商店や飲食店、会社など合するとほとんど同じ数である。

⑪ 住宅86戸のそれぞれの苗字は、鈴木家が7戸で一番多く、そのほかは同じ苗字の家2戸以上が13種類、1戸だけの苗字が48種類で、全部合すると62種類もありたいへん多い。

⑫ 100年以上も前からこの地区に住んでいる家は戸田家と大久保家の2戸だけだといふ。

ウ、約100年間で変わったこと。

- ① 道路各がはばひろくおすぐになった。また本数も多くなった。
- ② 家の数がものすごくふえ、水田はぜんぜんなくなり、建物とちやうど半ばになった。
- ③ 石がきや水ぼり、水路がなくなり、道路や住宅地になった。
- ④ 昔は長屋、学校、ごでん(役所)の3種類だけの建物であったのが、今はいろんな仕事をする建物が多くなり3種類以外にもなった。
- ⑤ わら屋根の建物がトタン屋根の一階建の建物が高い建物に変わった。
- ⑥ 昔とくらべると、今はたくさんの方が住むようになりましたが、昔からここに住みつづけている人は、戸田と大穴保の2戸だけになりました。また池のある広い庭をもつ家もなくなりました。

エ、どうして変わったか

- ① ^{しずおか} ^{はままつ} 今から140年前(1845年)に静岡県の浜松から山形にうつって来た米屋忠米青(ただきよ)という名の米屋(大名)は、大変びんぼうでした。それで、前の米屋という名の米屋が山形城の三丸に作った長屋をそのまま浜松からつれて来たけらい(武士)たちにあたえて住ませました。(軍費)そして、まわりの土地は、自分達が食べるものをつくる火田として利用させました。
- ② それから約20年後の1868年ころから、これまで長いあいだ山形をしばいして来た人たちにわかって新しい人たちがしばいするようになりました。そのあと、わたしたちの住んでいる町や生活が大きく変わる事になったのです。
- ③ 昔は、住む場所や仕事は、前からさきでいてそれぞれ自由に変わることができずでした。三丸にはさむらいが住むことになっていたのです。ところが、これからは、たれでも仕事は何をやってもよいし、どこに住でもよいことになったのです。
- ④ そして県庁や病院、学校、金鉄道などが近くにあって生活にべりなもの三丸にはたしかんの人たちがあつまって住むようになったのです。それで、むつやでなくなった三丸の石がきや水ぼりをうめたり、火田が住宅地に変わりました。

- ⑤ 昔はお城の一番大事な本丸がてきからせめられないように曲りくねった道路や石がき、ほりを作りました。また、車はなかったし、通る人も少なかったのも、道路はせまくてもよかったのです。でも、今はできるだけ生活にべんりなようにはばたくま、すくなく道路をつくるようになりました。とくに、山形に大きな火事が何回もおこり、消火に大変くろうしたり、昭和27年にかじょう公園が国民体育大会の会場で利用されたこともあって、道路は大きく変わったのです。
- ⑥ せまい所にたくさんの方が住むようになったし、車が多くの人たちに利用されるようになったので、駐車場や商店がふえ、建物も高くたてられるようになったのです。
- ⑦ そして、昔の人たちがつかっていた物がなくなり、生活のしかたも変わったりして、町のような昔ときとちがったものになってもよいのです。
- ⑧ 昔とちがって今は何をやってもよい自由な社会になり大変べんりでよくなったと思います。でも、昔の人たちがくろうして作った物がどんどん消えてゆくのはさびしい気がします。また昔は、火田や池があちこちにあって、虫や魚もたくさんいたというし、あふないことも少なく、自由にのんびりと広い戸外で遊んでいたようなのでうらやましくも思いました。

4. 研究のまとめ一言周ってわかったこと

① 昔の町のはようすは、

- ぼくの住んでる所は、山形城の三の丸というお城の中であつたこと。
- そして、そこに住んでゐた人たちは、山形城の一番大事な大手門や七日町口の門を守る武士たちだけであつたこと。
- また、家は20戸だけで、家のまわりの広い土地のほとんどが火田であつたことなごがわかつた。

② 今の町のはようすは、

- まわりにお城のあとであつたところをあらわすものは、せんぶなくなり、ほかの町と変わらないこと。
- いろいろなせうなどがあつて生活するのにべんりで、たくさん車が通り人が住む商業と住宅の町であることなごがわかつた。

③ 町のはようすは、長い間にいろいろな理由で、住む人の数や仕事の種類、生活のしかたなどが変わり、町も変わったことがわかつた。

5. 研究の反省

- ① 昔の町のようにきき調べることは、自分の目で見てたしかめることが、あまりできないので、大変むずかしかった。
- ② でも、第一小学校の系土花文庫にある古系会図で、昔のぼくの家近くの町のようにさがれ、かえて大変勉強になった。
- ③ 町のようにさが、変わるれけがよくわからなくて、とちゅうでいやになってしまったが、さいごまでやっていた。
- ④ 大手町にある古い建物か昔のぼくの家と同じであることがわかりましたが、よくきき調べることでなくなってざんねんでした。
- ⑤ 写真とりについてやら屋根を自分の目で見てとてもびっくりしました。その時ぼくは何もやらないで、お父さんが写真を撮っているあいだ何もしてつたれなかったのだけれど。

6. 参考資料と協力者

① 古絵図 (糸立花文庫)

② 山形市史

③ 住宅明系図土地図

④ 広幸及「やまがた」(特集 かじら公園)

⑤ 協力者

戸田正(おじいちゃん) 戸田かず(おばあちゃん)

戸田紇(お欠さん)

17. 資料—写真



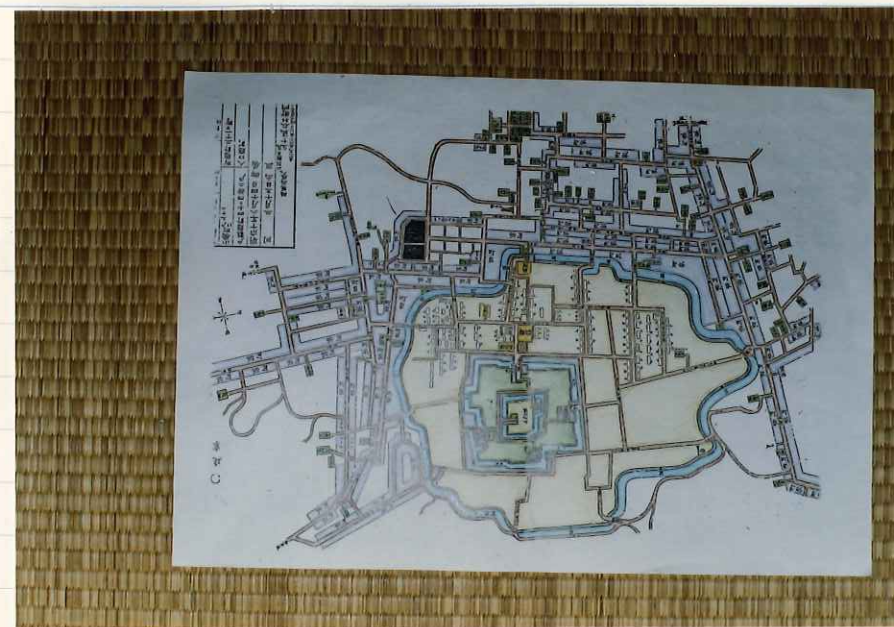
①

① 140年前の
古糸会図



②

上の古糸会図とおいちゃんやお父さんの
話を聞いて書いた昔の地図



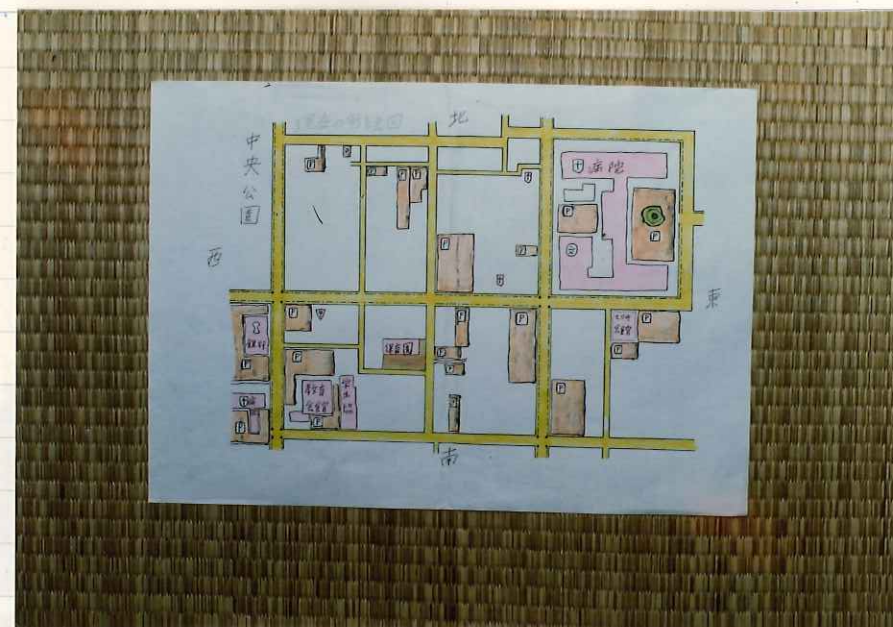
3

明治10年ころ(1877)の山形市(町)略図
三の丸のほりや長屋が書かれている。



4

明治40年ころ(1907)の山形市略図
三の丸のほりはなくなり、そのあとに道路と鉄道が書かれている。



②の絵図と同じ場所を今の道路と駐車場
場を中心に書いた。



大手町にあるわら屋根の長屋

昔、さむらいが住んでいた家と同じもの
(約200年前のもの)



⑦
細い昔からの道路と
古い建物

⑧
⑦のほんたいの方から
写したものの





⑨

大沼 ちゅう車場の おし場 から西のかいこう公園
の方を写したものだ。

⑩



同じおし場から南の山形一小の方を写したものだ